

# 大垣市 農業委員会だより

## 第21号

令和4年8月1日発行  
 編集/発行 大垣市農業委員会  
 (大垣市丸の内2丁目29番地)  
 ☎ 0584-81-4111(内線2532)  
 ☎ 0584-47-8614(直通)  
 Fax 0584-81-4899

### 農地の有効利用について

大垣市農業委員会 副会長 高橋 滋



皆様方には、日頃より農業委員会活動の推進にあたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年の農業を取り巻く環境は、人口減少社会が到来する中、農業の担い手の減少と高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増大など課題が山積しております。

こうした中、農業委員会では、農地の集積・集約化や耕作放棄地の発生防止、新規参入の促進など、農地等の利用の最適化の推進を図っております。

また、本年七月から八月にかけて農地パトロールを実施し、遊休農地及び遊休化のおそれがある農地を把握し、農地の利用調整と有効活用を図ってまいります。

休耕田の有効活用と地域活性化を目的とし、大垣の夏の風物詩として定着してきた「ひまわり畑」が、大垣市平町地内で三年ぶりに開催されます。見頃は、八月上旬から八月下旬です。皆様とご一緒に「ひまわり畑」を楽しみましょう。

終わりに、今後とも、当農業委員会の各業務に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

### 人・農地プランの取り組み

大垣市農業委員会 副会長 吉田 和郎



農地をいかに維持していくか、活用していくかという課題は、どこの地域においても大切な課題です。そ

のため、「人・農地プラン」が各地域において作成されていますが、推進していくには困難な課題も多くあります。

「農地の集積・集約化のさらなる促進」に取り組む地域が約半数ある中で、「耕作放棄地の解消」や「水路の畦畔除草等の管理」に取り組む地域もあります。そのような中、私の地

域では、担い手同士による話し合いが進み、ある程度担い手の区域分けができていくことから、今年度は「ジャンボタニシの被害防止」に取り組んでいます。

幸いにも、老人会の協力を得て、ジャンボタニシ撲滅作戦を実施することができました。農地の維持に対し、ささやかな活動かもしれませんが、多くの方々と協力して行うことができ感謝しています。



## 農地利用最適化 推進委員として

農地利用最適化推進委員

山中 源一



農事改良組合の委員をしていたところ、農地利用最適化推進委員に推されて、何も解らないまま引き受けましたが、現状遊休農地の多さに、びっくりしました。

以前に宇留生地区で人・農地プランでアンケートを取って耕作状況などを聞いた事があります。宇留生地区の耕作面積七十三haで、アンケートに回答した農地所有者の耕作面積五十七、六ha、六十歳以上の農業者の耕作面積二十六、三ha、後継者がいない農業者の耕作面積九、八ha、後継者未定の農業者の耕作面積八、一ha、今後農業法人等に委託する意向の農地が十七、三haという結果が出ました。さらに、貸付の意向が確認された農地が二、六ha、売却の意向が確認された農地が一、一ha。五年以内に貸付きたい農地が一、二ha、五年以上十年以内で貸付したい農地が一、四haという結果でした。当地域だけでなくどの地域も農業従事者の高齢化という問題を抱えており、これにより耕作放棄地が増えると思います。

この問題に対し、少しずつでも耕作放棄地がなくなるよう、相談に乗っていききたいと思います。

## 農地利用最適化 の推進

農地利用最適化推進委員

高木 敏幸



農地利用最適化推進委員の委嘱を受けてから、まもなく二年が経過しようとしています。

農地パトロールを同地区の農業委員と二人で実施しましたが、はじめは耕作放棄地の多さに驚きました。以後、農地所有者へ、農地の適正な管理をお願いすることにより、かなり耕作放棄地が減少し、農地の有効活用がなされるようになりました。

担い手の高齢化等により農業をめぐる環境は極めて厳しい状況であることには変わりませんが、昨今の世界情勢の不安定化により食糧事情等にも大きく影響がおよび、我が国として食料自給率を上げる必要性を痛感しました。

せつかくの貴重な農地を遊ばせることなく有効利用する為、今後も農地所有者や行政と緊密に連絡調整し、地域の農地を適正に活用できる様、努めてまいります。



## 農地利用最適化 推進委員になって

農地利用最適化推進委員

上田 彰



私は、地域の営農組合に携わって、転作小麦や作業受託等を行っております。

農業を取りまく環境は、後継者不足に加え、「儲からない」、「重労働できつい」、「機械が高額」、「収入が不安定」、「魅力を感じない」等の多くの課題があり、人材確保が難しい状況です。

そのため、遊休農地が目立つようになり、何か対策を講じないといけないと思い、転作小麦の後に、除草対策として大豆の栽培を受託して行いました。しかし、転作を行った以外の所は、雑草がはびこり、二〜三年放置すると、大変大きくなり、除草が困難になります。この様な状況を打破するために、農地中間管理機構を活用して、優良な耕作者を見つけることで、一件でも、遊休農地の解消に努めたいと思います。

また、遊休農地は、農地集積に支障をきたすと共に、獣害虫等の温床となる恐れや、ゴミの不法投棄につながり、周辺住民や農地に多大な悪影響を及ぼす可能性があります。

今後、私は、農地利用最適化推進委員として、地域の農地の健全化に取り組んでまいります。

## ☆☆農地パトロール(農地の利用状況調査)について☆☆

今年度において、農業委員会では、農地法第30条の規定に基づき、農業委員と農地利用最適化推進委員による農地パトロール(農地の利用状況調査)を7月、8月、11月に実施します。

実施の際には、調査のため皆様の農地に立ち入ることがありますので、ご理解とご協力をお願いします。

遊休農地(耕作放棄地)は、農地集積に支障をきたすだけでなく、獣害虫等の温床となる恐れや、ゴミの不法投棄等の発生源になるため周辺住民や農地に多大な悪影響を及ぼす危険性があります。



農地の管理は、農地法において、「農地について権利を有する者の責務」として規定されていますので、農地の適正管理をお願いします。

農地の利用でお困りの方は、農地が遊休化する前に、地元の農業委員・農地利用最適化推進委員又は農業委員会事務局にご相談ください。

なお、農地パトロールの結果、雑草繁茂などにより、適正管理が確認できない農地所有者等に依頼文書を送付いたします。ご周知おき下さい。

## 知って得する！農業者年金

国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」で安心して豊かな老後生活を！

- 80歳までの保証付きの「**終身年金**」です！
- 一定の要件を満たす方には、**月額最大1万円の保険料補助**
- **加入で大きな節税効果！保険料は全額社会保険料控除の対象**

農業者年金の加入には、

「**国民年金第1号被保険者であること**」

「**年間60日以上農業に従事していること**」

「**60才未満であること**」

の3つの要件を満たしている必要があります。

※60歳以上65歳未満の方は国民年金任意加入者であることが条件です。

**お問い合わせはお近くのJAまたは農業委員会へ！**

詳しくは…**農業者年金基金**

**検索**

<https://www.nounen.go.jp>

農業者年金に  
加入しよう！



Part  
1

かがやく☆人・農地訪問☆

みんな笑顔！「子ども農業体験」

ミツヤアグリ

～三津屋町～

### 団体プロフィール

名称：ミツヤアグリ

代表者：小林 建次

発足：平成 24 年 4 月

会員数：20 名(町内農業従事者・役員ほか)

活動内容：遊休農地を活用した子ども会への  
農業体験と町内住民との交流事業



令和4年6月快晴の空の下、三津屋町内の苗場で

長年にわたり食農教育（農業体験から食の大切さを学ぶ）支援を行っている「ミツヤアグリ」と同町内子ども会との農業体験（田植え、ジャガイモ掘り）におじゃましました。

参加者：子ども32名、保護者：20名、ミツヤアグリ会員：20名

☆「ミツヤアグリ」代表の小林さんにお話を伺いました。

### Q 活動のきっかけは？

A 地域の三世代交流事業として子ども会と連携し農業の体験を通して子どもたちが農業に興味を持つことや食べ物の大切さを感じてもらいたいと思いました。



大きなジャガイモみつけたよ

### Q 活動してきたなかで思う事や気を付けてきたことは？

A 低学年でも出来るような体験内容とすること。  
安全には特に配慮し、稲刈りなど刃物を使う場合は、子どもの保護具の着用等を保護者をお願いし、ご協力をいただいています。  
住宅街での農作業（農薬散布や機械音・早朝収穫など）にもトラブルなくできるのはこうした交流事業の効果だと思えます。



気持ちいい～☆  
ポンプで泥落とし

### Q 「ミツヤアグリ」今後の活動に思う事は？

A 継続して活動する予定ですが、現在の会員の高齢化や離農が進むにつれ、この活動が次の担い手に引継がれなくなることに不安を感じます。



わぁ☆いっぱい出てきた



ドキドキ☆田植え機乗車体験

### ★取材を終えて

今年で11年目を迎えるミツヤアグリ活動。秋には餅米の稲刈りやサツマイモ収穫、冬に餅つき、春の餅まきへと続きます。  
年間通じて子どもたち自ら体感できる農業体験が、やがては農業の担い手としてこうした活動も継承されることを願うばかりです。